

# J.LEAGUE NEWS

Vol. **177**

30 Nov. 2010



編集・発行  
社団法人 日本プロサッカーリーグ  
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

2010 J.LEAGUE  
YAMAZAKI NABISCO CUP  
**FINAL**

© J.LEAGUE PHOTOS



12年ぶり2度目のヤマザキナビスコカップ優勝を成し遂げた磐田。選手、スタッフがスタンドのファン・サポーターと喜びを分かち合った

## 磐田がリーグカップウィナーに

2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝で広島を破り、12年ぶり2度目の優勝を飾る

2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝が11月3日、3万9767人の入場者が見守る国立競技場で行われ、延長戦を含む120分間の熱戦を制したジュビロ磐田が優勝を飾った。1992年に始まったリーグカップ戦、ヤマザキナビスコカップは、Jリーグ、天皇杯全日本サッカー選手権大会と共に、日本サッカー界の3大タイトル。優勝の磐田には賞金1億円、Jリーグカップ(チェアマン杯)、ヤマザキナビスコカップ(スポンサー杯)、メダルが、準優勝のサンフレッチェ広島には賞金5,000万円、楯、メダルが授与された。MVP賞にはFW前田遼一(磐田)が輝き、ニューヒーロー賞にはMF高萩洋次郎(広島)が選ばれた。(2~3、8ページに関連記事)

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



EQUIPMENT SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



# ゴールの応酬、MVPは前田が受賞



澄み渡った青空のもとで行われたファイナルは、手に汗握るゴールの応酬。磐田が先制し、広島が逆転した試合は、磐田が土壇場で追いつき延長戦へ。勢いに乗った磐田がドラマチックな大激戦を制し、久々のビッグタイトルを手中にした。

随所に激しい攻防を見せた磐田の前田(右)と広島の榎野。前田はMVP賞を獲得し、榎野も直接FKで得点を決めるなど奮闘した

©J.LEAGUE PHOTOS

敗色が濃厚となったジュビロ磐田に、起死回生の同点ゴールが生まれたのは89分のことだった。CKのボールをMF那須大亮がヘディングシュート。サンフレッチェ広島のGK西川周作がはじいたところをFW前田遼一がけり込み、2-2と追いついた。DF榎野智章をはじめとする広島の守備陣の厳しいマークにあい、シュートを打つことができなかった前田は、土壇場でエースストライカーの本領を發揮した。

勢いに乗る磐田は、延長戦前半の連続ゴールによって、一気に主導権を握った。まず102分、やはりCKを起点に、MF菅沼実が逆転ゴール。その2分後には、前田とのパス交換で抜け出したFW山崎亮平が決めて、リードを2点に広げた。菅沼と山崎は1点を追う後半途中に起用された選手で、柳下正明監督の交代策が

突った。

その後、広島に1点を返されるも、延長戦後半の109分には前田が左から持ち込み、ダメ押しともいえる得点で5-3と再び2点差。アディショナルタイムにGK川口能活が広島のPKを防いだ直後に、タイムアップを告げるホイッスルが鳴り響いた。柳下監督は試合後、「相手のリズムの中でも粘り強く一体となって守れるように成長した。今日の試合でも、それが生かされた」と、白熱した試合を制した勝因を挙げた。

磐田にとっては、2003年度の第83回天皇杯全日本サッカー選手権大会以来となる、ビッグタイトルの獲得。Jリーグ優勝3回を誇る名門クラブも、2008シーズンにはJ1・J2入れ替え戦(現在は実施されず)を経験するなど近年は厳しい時期を過ごしていたが、今シーズンはリー



©J.LEAGUE PHOTOS

広島の高萩を磐田の山本康(左)と那須がマーク

グ戦の戦いぶりも次第に安定し、復活を感じさせるヤマザキナビスコカップ優勝となった。

一方、広島はあと一歩で初優勝を逃した。FW李忠成、MF山岸智の得点で一度は逆転に成功したが、90分の終了直前に追いつかれ、延長戦の末に惜敗した。ペトロヴィッチ監督は「(80分ごろから)1点のリードを守り切ろうと、かなり守備的になってしまった。その姿勢が失点につながったのかもしれない」と終盤の戦いぶりを悔やんだが、「リードされながらも強い意志を持って戦った」と選手たちの健闘をたたえた。

優勝に最も貢献した選手に与えられるMVP賞は、前田が受賞した。自ら2得点をマークしたほか、MF船谷圭祐の先取点、山崎の追加点をおぜん立てするなど、4得点に絡む活躍。「必ずチャンスが来ると信じていた」と、貴重な同点ゴールの瞬間を振り返った。



©J.LEAGUE PHOTOS

交代出場て価値ある逆転ゴールを決めた磐田の菅沼



©J.LEAGUE PHOTOS

延長戦後半の4分前田がチームの5点目を決める



© J.LEAGUE PHOTOS

2010年11月3日 14:09キックオフ 国立競技場

ジュビロ磐田 5 3 サンフレッチェ広島  
(延長)

【得点経過】

- 36分 1-0 (磐)船谷 圭祐
- 43分 1-1 (広)李 忠成
- 48分 1-2 (広)山岸 智
- 89分 2-2 (磐)前田 遼一
- 102分 3-2 (磐)菅沼 実
- 104分 4-2 (磐)山崎 亮平
- 105+3分 4-3 (広)槇野 智章
- 109分 5-3 (磐)前田 遼一

【入場者数】3万9767人  
【主審】高山 啓義  
【副審】山口 博司／二俣 敏明  
【第4の審判員】山本 雄大

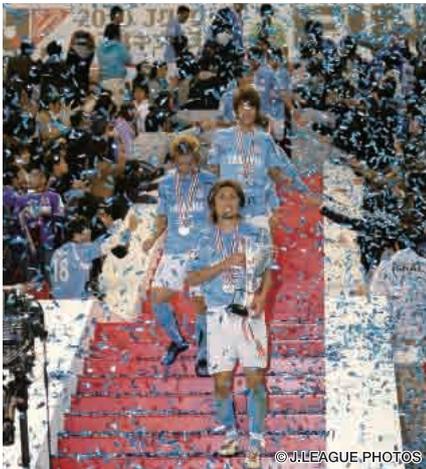


© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

4万人近い入場者が詰めかけた国立競技場



© J.LEAGUE PHOTOS

表彰式を終えてピッチに向かう磐田の選手たち

ファン・サポーターもさわやかな秋の一日を満喫



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

フェイスペインティングを無料サービス ナビスコキッズバトルのシュートゲーム、ドリブルゲームを競う子どもたち



© J.LEAGUE PHOTOS

ビクトリーロードの写真をバックに記念撮影



© J.LEAGUE PHOTOS

スタジアム内で販売された静岡県、広島県のご当地グルメも大人気

柳下 正明 監督(磐田)

「初めの30分以降の時間は広島の攻撃も素晴らしい、われわれも粘り強い守備からのカウンターでチャンスをつくった。見ていて非常に面白いゲームができたのではないかと思います。ファン・サポーターに力をもらい、勝たなければいけないというのを表現できた。素晴らしいプレーをしてくれた選手たちに感謝し、誇りに思う。久しぶりのタイトル(獲得)のチャンス、優勝という形で、ファン・サポーターの皆さんにも喜びを与えることができ本当によかった」



© J.LEAGUE PHOTOS

ベトロヴィッチ監督(広島)

「スタンドで、テレビの前で、皆さんが素晴らしいゲームを見ることができたのではないかと。1試合で8点もゴールが決まり、素晴らしい試合だったと思う。広島はリードされた後も追いついて逆転し、一時は2点差をつけられても、あきらめずに戦った。残念ながら敗戦となったが、われわれはリードされながらよく戦った。敗れたことは非常に残念だが、これで終わるわけではない。来年はわれわれがこのカップを手に入れるように、頑張っていきたい」



© J.LEAGUE PHOTOS

大東 和美 Jリーグチェアマン

「一進一退のいいゲームだった。点の取り合いになるのではと予想していたが、まさにその通りの展開になった。後半の最後まで、このまま広島がいくかと思ったが、最後に磐田の底力が出た。延長戦は特に面白かった。短い時間に攻めて攻めて攻め続ける展開になった。どちらが勝ってもおかしくないゲームだった。4万人近いお客様に入っていたとき、大変感謝している。皆さんに喜んでいただけたのではないかと思います」



© J.LEAGUE PHOTOS

決勝前夜祭&ニューヒーロー賞

決勝前日の11月2日には、東京都内のホテルで恒例の決勝前夜祭が行われた。冒頭でJリーグの大東和美チェアマンが「国立競技場のピッチに立つ選手たちには、ヤマザキナビスコカップの歴史の重みを感じ、そして多くのファン・サポーターたちの優勝カップへの期待を胸に、頂点を目指して最後の1分1秒まで全力で戦ってほしい」とあいさつ。大会特別協賛のヤマザキナビスコ株式会社の飯島茂彰 代表取締役社長からは、「トーナメントの優勝、準優勝というのは大変価値のあるもの。その価値をご理解いただき、決勝戦後も各ホームタウンでサッカー振興の一助にさせていただけるよう、ぜひお願いしたい」との言葉をいただいた。

予選リーグから準決勝まで、最も活躍が顕著だった23歳以下(大会開幕時)の選手が対象となるニューヒーロー賞の発表も行われ、サンフレ

ッチェ広島のMF高萩洋次郎が受賞。今大会はチームがAFCチャンピオンズリーグ参加のため、準々決勝からの出場だが、「実力派の若手ぞろいのチームの中で圧倒的な存在感」(上野山信行 Jリーグ技術委員会委員長)を見せた。高萩は「前線にポジションを取っているの、ゴールにつながるプレーが評価されたと思う」と話した。



© J.LEAGUE PHOTOS

高萩は準決勝第1戦で得点を挙げるなどの活躍



© J.LEAGUE PHOTOS

両チームの選手が決勝前夜祭の壇上に勢ぞろい。翌日の決勝に向けて期待が高まった

**2010 J.LEAGUE**

**名古屋がJ1初優勝を飾る。  
柏、甲府がJ2で3位以内を確定**

J1リーグ戦は、第18節から首位に立っていた名古屋グランパスが念願の初優勝を飾った。11月20日に行われた第31節で、湘南ベルマーレとのアウェイゲームを戦った名古屋は、66分にFW玉田圭司が決めた得点によって1-0の勝利を収め、勝点を66へ伸ばした。同時刻に始まった試合で、4連覇を目指す2位の鹿島アントラーズはヴィッセル神戸と0-0の引き分け。勝点を56としたが、名古屋との勝点差は10と開き、残り3試合で上回る可能

性がなくなった。J1は過去5シーズン、いずれも最終節に優勝が決まっており、3節を残しての優勝決定は、2005年に1ステージ制となって以来、最も早いものとなった。

今シーズンの名古屋は第31節までに7敗を喫しているが、連敗が一度もなく、敗戦の次の試合には必ず白星を挙げて立ち直りの早さを見せた。また同節までの21勝中、1点差による勝利が14試合もあるなど、接戦を勝ちきる勝負強さも身に付いた。チームを率いて3シーズン目と



優勝が確定した湘南戦も1点差の勝利(写真は名古屋の玉田)

なるストイコビッチ監督は「名古屋(のクラブ)史上に残るこのような結果を出すことができ誇りに思う」と胸を張った。

また、J1の残留争いでは、第30節に京都サンガF.C.、湘南ベルマーレの17位以下が確定した。

一方、J2では第33節に柏レイソル、第34節にヴァンフォーレ甲府が、J1への昇格条件の一つとなる3位以内を確定した。柏は第5節から首位をキープ。甲府も第13節から2位の座を守り続けた。



1993年のJリーグ開幕から18年目のシーズンに念願の初優勝を達成した名古屋

**J1リーグ戦 歴代優勝チーム**

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1993 ヴェルディ川崎  | 2002 ジュビロ磐田    |
| 1994 ヴェルディ川崎  | 2003 横浜 F・マリノス |
| 1995 横浜マリノス   | 2004 横浜 F・マリノス |
| 1996 鹿島アントラーズ | 2005 ガンバ大阪     |
| 1997 ジュビロ磐田   | 2006 浦和レッズ     |
| 1998 鹿島アントラーズ | 2007 鹿島アントラーズ  |
| 1999 ジュビロ磐田   | 2008 鹿島アントラーズ  |
| 2000 鹿島アントラーズ | 2009 鹿島アントラーズ  |
| 2001 鹿島アントラーズ | 2010 名古屋グランパス  |

**大東和美 Jリーグチェアマン コメント**

名古屋グランパスの皆さん、優勝おめでとうございます。心より祝福申し上げます。最終節を待たずに優勝が決まったのは、1ステージ制となり初めてのことであるが、それは今シーズン、名古屋グランパスに他を圧倒する勢いがあった証し。初優勝のクラブが新たに誕生したことは、Jリーグ全体の活性化につながり、さらなるリーグの発展を促すだろう。また、ホームクラブであった湘南ベルマーレのファン・サポーターが作り上げた雰囲気、優勝をたたえる姿勢に感銘を受けた。それに応えて、名古屋グランパスの選手も試合後にホームサポーターへあいさつを行ったことは、スポーツの原点そのものであったと思う。とてもさわやかで感動的な試合であった。



攻守に安定した戦いでJ2の3位以内を確保した柏

**第90回 天皇杯全日本サッカー選手権大会  
大会史上初の3連覇を目指すG大阪などが準々決勝に進出**

「第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会」は11月17日に4回戦が行われ、12月25日(土)に開催される準々決勝へ進出する8チームが決定した。すでに3回戦を終えた時点で、16強はすべてJクラブのチームが占めており、8強の内訳はJ1が7で、J2からは唯一、アビスパ福岡が勝ち残った。

4回戦は8試合中、4試合が延長戦にもつれ込む接戦となった。大会史上初の3連覇を目指すガンバ大阪は、J2首位の柏レイソルを延長戦の末に4-1と振り切った。J1の優勝争いを

リードしていた名古屋グランパスは、延長戦を終えて1-1の後、PK戦でアルビレックス新潟を下した。福岡も大宮アルディージャと2-2の後、PK戦による勝利。1996年のJリーグ入会後では、初の8強入りを果たした。このほか、モンテディオ山形、鹿島アントラーズ、浦和レッズ、FC東京、清水エスパルスが勝ち進んだ。

準々決勝の組み合わせは、鹿島vs名古屋、福岡vsF東京、山形vs清水、G大阪vs浦和。準決勝は12月29日(水)、決勝は国立競技場で1月1日(土・祝)に開催される。



J1とJ2の戦いとなった4回戦のF東京vs千葉



# 「Jユースカップ2010 第18回Jリーグユース選手権大会」



「Jユースカップ2010 第18回Jリーグユース選手権大会」の予選リーグが11月23日に終了し、12月5日(日)から決

勝トーナメントがスタート。予選リーグを勝ち抜いた16チームに、日本クラブユースサッカー連盟の代表4チーム(三菱養和とサッカークラブユース、塩釜FCユース、センアノ神戸ユース、アミゴス鹿児島U-18)を加えた合計20チームが、トーナメント方式で争う。

この大会は、ユース世代の選手育成とタイトルを懸けた真剣勝負の機会を提供することを目的として、1994年に始まった。日本サッカー協会の第2種(高校生年代)に登録している選手が中心となり、Jクラブのトップチームへの登竜門ともいわれている。Jリーグでもこの大会を経験した10代の選手の活躍が目立っており、その重要性、価値は回を追うごとに高まり、若い選手たちのひたむきなプレーに注目が集まっている。

今年の大会の決勝は12月26日(日)、舞台は恒例の大阪長居スタジアムで開催される。決勝トーナメントの組み合わせ、日程などの詳細は、Jリーグ公式ホームページの当該コーナー(<http://www.j-league.or.jp/youth/>)を参照のこと。

## 決勝トーナメント日程

- 1 回 戦：12月5日(日)／西が丘サッカー場、堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター
- 2 回 戦：12月11日(土)または12日(日)／出場クラブのホームスタジアムなど
- 準々決勝：12月19日(日)／ウェーブスタジアム刈谷、長居第2陸上競技場
- 準 決 勝：12月23日(木・祝)／大阪長居スタジアム
- 決 勝：12月26日(日)／大阪長居スタジアム

## 歴代優勝チーム

- 第1回 ヴェルディ川崎ユース
- 第2回 ガンバ大阪ユース
- 第3回 サンフレッチェ広島F.C.ユース
- 第4回 ヴェルディ川崎ユース
- 第5回 清水エスパルスユース
- 第6回 鹿島アントラーズユース
- 第7回 ヴィッセル神戸ユース
- 第8回 ガンバ大阪ユース
- 第9回 京都パープルサンガユース
- 第10回 ガンバ大阪ユース
- 第11回 サンフレッチェ広島F.C.ユース
- 第12回 鹿島アントラーズユース
- 第13回 清水エスパルスユース
- 第14回 サンフレッチェ広島F.C.ユース
- 第15回 FC東京U-18
- 第16回 ガンバ大阪ユース
- 第17回 FC東京U-18



# 「AFCチャンピオンズリーグ2010」は城南一和が優勝を飾る



「AFCチャンピオンズリーグ2010」の決勝が11月13日に国立競技場で行われ、城南一和(韓国)がゾブ・アハン(イラン)を3-1と破って優勝を飾った。韓国のKリーグのクラブによる優勝は、昨年の浦項スティーラーズに続いて2年連続。城南一和のアジア制覇は、この大会の前身であるアジアクラブ選手権に優勝した1995年以来、15年ぶり2度目となった。今回の優勝

によって、城南一和は12月8~18日にアラブ首長国連邦(UAE)で開催されるTOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップ UAE 2010に、AFC(アジアサッカー連盟)を代表して出場する資格も獲得した。

今年の大会では、韓国の4チームが8強入りを果たしており、城南一和のシン・テヨン監督は「出場が決まった時点で、周到な準備を開始した」こと

を、活躍の要因に挙げた。

なお、決勝は主審の西村雄一、副審の相楽亨、名木利幸、第4の審判員の高山啓義の各氏が、試合のコントロールを行った。



15年ぶりのアジア制覇を果たした城南一和

## 大東チェアマンが茨城県の「特別功労賞」を受賞

Jリーグの大東美チェアマンが、平成22年度茨城県表彰において「特別功労賞」を受賞した。この表彰は、茨城県の各分野において、県勢の発展に著しい功績があった人物、団体に感謝の念を表するとともに、県民の模範とするために同県が行っている。今回は計35名、15団体が表彰された。11月12日には茨城県庁舎の講堂において表彰式が行われ、大東チェアマンはすべての受賞者を代表して謝辞を行い、「これからは全

国のJクラブを支える立場となった。茨城県においては鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホックの2クラブがあり、引き続き茨城県の皆さまにご支援いただけると幸いです」と述べた。

大東チェアマンは、茨城県を活動区域とする鹿島アントラーズで、2005年より専務取締役、06年から今年7月まで代表取締役社長を務め、2007シーズンからのJリーグ3連覇などクラブの躍進を支えた。



特別功労賞の表彰を受ける大東チェアマン

## 実行委員選任について

Jリーグは、11月16日に開催した理事会において、大宮アルディージャの実行委員を渡邊誠吾氏から鈴木茂氏へ、京都サンガF.C.の実行委員を梅本徹氏から今井浩志氏へ変更することを承認した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
大宮アルディージャ	渡邊 誠吾 エヌティティスポーツコミュニティ(株) 前代表取締役社長	鈴木 茂(すずき しげる) エヌティティスポーツコミュニティ(株) 代表取締役社長
京都サンガF.C.	梅本 徹 (株)京都パープルサンガ 代表取締役会長	今井 浩志(いまい ひろし) (株)京都パープルサンガ 代表取締役社長

## 「2010 Jリーグアウォーズ」賞プレゼンター決定 ~2010 Jリーグ特命PR部より、部長&女子マネージャーも登場!~



12月6日(月)18:30よりJCBホール 東京ドームシティ MEETS PORT内にて開催される年間表彰式「2010 Jリーグアウォーズ」の賞プレゼンターを以下のように決定した。今シーズン、Jリーグ特命PR部長を務める木下優樹菜さん、女子マネージャーの足立梨花さんもプレゼンターとして登場する。

### プレゼンター(敬称略)

- 大杉 漣 俳優
- 荒川 静香 プロフィギュアスケーター
- 木下 優樹菜 タレント(2010 Jリーグ特命PR部 部長)
- 足立 梨花 女優・タレント(2010 Jリーグ特命PR部 女子マネージャー)

# Jクラブと歩む「地域」「ひと」

7

モンテディオ山形



## ゆっくりと地道に。クラブを愛する人の輪は大きく、強固に

### 地区単位で選手を後押し

「何よりもあいさつが変わりましたよね。前まで『おはよう、いい天気ですね』だったのが、今では『モンテ、勝ったね』『きのうは残念だったね』ですから」。モンテディオ山形のホームスタジアム・NDソフトスタジアム山形や練習グラウンドがある山形県天童市で、擦れ違いざまに交わされる言葉。そこにはチームへの愛情がぎっしりと詰まっている。おひざ元、では今、地区単位で選手たちを後押しする動きが活発化している。

きっかけは、やはり2008年のJ1昇格。厳しい下馬評を覆すイレブンの活躍、さらには大挙して押し寄せる対戦相手のファン・サポーターの存在に応援熱は高まった。天童市の計13地区のうち、10月末現在、干布(ほしぬの)、長岡、天童南部、天童中部、天童北部、津山の6地区で応援クラブが誕生。活動の拠点となるのが各地区の公民館だ。例えば長岡地区では昨年、「長岡モンテディオサポーターズクラブ」(柴崎正和会長)が結成された。20~80歳代までの地区住民約200人が会員に名を連ねている。冒頭の言葉は、柴崎会長が地区内におけるモンテディオの関心度を表現したものだ。

活動内容はクラブごとに異なり、長岡サポーターズクラブの場合、スタジアムまでの沿道を彩る応援のぼりやプラントの作製、アウェイのバスツアーなどを展開している。中でも大型バス1台を貸し切ってアウェイへ繰り出す応援ツアーは盛況。道中は山形サポーターの応援ソングを歌いながらウォーミングアップ、するほか、面識のなかった隣人と知り合える楽しみがあるという。昨シーズンは新潟と鹿嶋に足を運び、天童市立長岡公民館の五十嵐安正館長は「今シーズンは年間予定になかった湘南ベルマーレとの開幕戦で、『行くべ』と声が上がって実施。ダービーマッチ(第23節のベガルタ仙台戦)のときは



左から長岡モンテディオサポーターズクラブの柴崎会長、長岡公民館の五十嵐館長、今田明副主幹兼主事

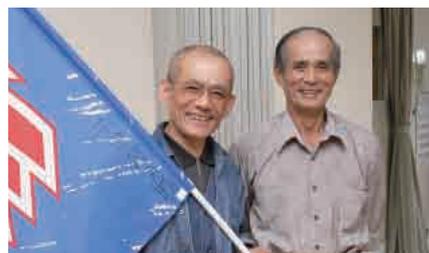
©山形新聞社

満員になって断った人もいたほど」と話し、柴崎会長は「試合前日から興奮して眠れない—という人もいるくらい。みんなモンテを自分のチームとと思っている。生きがいです」と声を弾ませる。

### 地域名を連呼できる幸せ

一方、干布地区の「ほしぬのモンテ応援隊」(蜂谷敏会長)は、他地区に先駆けクラブがJ2だった07年に発足した。「試合に勝った、負けたは音(声援)で分かる」(水戸部光昭天童市立干布公民館長)ほど、スタジアムは目と鼻の先にある。公民館のにぎわい創出を狙い、「モンテの試合は歩いて見に行ける」幸せ。それに気付いてもらえれば」(水戸部館長)と応援隊を立ち上げた。会員は地区住民全員と位置付け、約800世帯、3,000人がサポーターという考え方。蜂谷会長は「子どもからお年寄りまでがプロスポーツを応援できることは、最高の交流の場」と強調する。

公民館便りなどを通じて試合観戦を呼び掛け、応援隊結成から3年。当初はチケットの購入方法すら分からなかった人が、今ではそれぞれが解説者並みにチームを語るほどになったという。同応援隊の「一大イベント」は、ことし5月の第11節、FC東京戦(ホーム)。地区内の干布小学校と連携し、全校児童と地区住民の計300人がスタジアムに駆けつけた。それぞれが手作りの応援カードを持参するなど一致団結。残念ながら試合は0-3で完敗したものの、「地区民の1割が試合を見た計算になりますからね。(活動の)インパクトは大きかった」と蜂谷会長は胸を



ほしぬのモンテ応援隊の蜂谷会長(左)、干布公民館の水戸部館長 ©山形新聞社

張る。「今、スタジアムへユニフォームを着て歩いて行くと『ご苦労さま』と声を掛けられるんです。前は浮いた感じに見られていたのに。完全にモンテは市民権を得ましたね」と続けた。

今シーズンの山形のホームゲーム平均入場者数は約1万2000人(第31節現在)。J1で2年目を戦うチームの奮闘ぶりを踏まえると、やや物足りない数字にも映る。あらゆる面で発展途上のクラブということは間違いない。ただ、老若男女を問わず地域に支えられた「山形らしさ」が、しっかりと根付きつつあるのも事実。チームを率いて3年目の小林伸二監督は「地区ごとにまとまった応援は、ほかでは考えられないこと」と驚きを込めて話す。

「おらがまち、のクラブとともに一喜一憂できる喜び。干布公民館の水戸部館長は言う。「モンテのほかに、山形で1万2000人を集められるイベントはないですからね。大きな声でやまがた、と連呼できる幸せがある」。ゆっくりと地道に—。モンテディオ山形を愛する人の輪は大きく、強固なものになっている。

(山形新聞社 稲村 裕介)



第11節のFC東京戦で手作りの応援カードを掲げ、声援を送る干布小の子どもたち

©干布小学校

Jリーグニュースでは146号(2008年3月28日発行)から165号(09年10月30日発行)にかけて「スポーツでつくる幸せな国『Jリーグ百年構想』へのアプローチ」と題し、Jクラブによる地域に根差すためのさまざまな取り組みを連載した。では、こうしたJクラブの存在、活動に刺激を受けたり、触れるなどして、地域とそこに暮らす人々とはどのように変わったのか。新たなシリーズでは、Jクラブと手を携えながら共に歩む人々や、その活動を紹介。第4回となる今回は、モンテディオ山形、ジェフユナイテッド千葉にスポットを当てた。



8

## ジェフユナイテッド千葉



# クラブの存在がそのまま、まちづくりに。非日常を生み出し、多世代交流の場となることを期待

### 菜の花イエローがあふれるまちに

「我、蘇(よみがえり)——。

前身の日本サッカーリーグ、古河電工時代以来、45年間守り通してきた1部の座から2009年11月8日、ジェフユナイテッド市原・千葉(以下、ジェフ千葉)はJ2リーグへの降格となる16位以下が確定した。その翌日、千葉市の熊谷俊人市長は、ヤマトタケルノミコトの神話に伝わる、ホームタウンである千葉市の「蘇我」の名の由来を引き出し、早期のJ1リーグ復帰を期待した。

ジェフ千葉は03年、市原市に加え千葉市もホームタウンに広域化。これに伴い千葉市は05年に1万8500人収容のサッカー専用スタジアム「フクダ電子アリーナ」(以下、フクアリ)を千葉市蘇我スポーツ公園の中心に建設した。09年10月にはフクアリ隣接地に、天然芝のピッチ2面とトレーニングルーム、クラブハウスを備えた新練習場の「ユナイテッドパーク」が同市の協力で誕生。三木博計代表取締役社長は「これ以上は望むべくもない。終(つい)の住処(すみか)とし、地域と共に歩む拠点にしたい」と感謝の意を述べ、Jリーグの中でも屈指の設備と練習環境が整ったクラブとなった。

熊谷市長は「プロクラブがあるということが

そのまま、まちづくりになる。ジェフ千葉には街の雰囲気ガラッと変わるような非日常を生み出してほしい。試合の日には菜の花イエローのユニフォームを着た市民であふれ、フク

熊谷市長 ©千葉市役所

クアリが老若男女の多世代交流の場となることを期待している。常に優勝争いしてくれとか、スター選手を抱えてくれとは言いません。われわれは強いチームより、愛されるチームを求めている」と話す。

### 流れをつくるのが行政の役目

千葉市は予算をかけ、2005シーズンからジェフ千葉の試合日程入りポスターを前期、後期の2回に分け1,500枚ずつ、合計3,000枚を制作。近隣の飲食店や公共施設の協力を得て張り出し、さらに今シーズンからホームゲームのある



千葉市が制作した試合日程入りポスター

週末が近づくとのぼりを公共施設に立て、市民に試合があることを知らせている。また、JR蘇我駅西口からフクアリへの道路の街路灯にバナーフラッグを掲げ、試合に向かうファン・サポーターの雰囲気盛り上げに一役買っている。こうした取り組みに対して、市長は「応援するのが当たり前、という流れをつくるのが行政の役目。96万人の市民すべてとはいかないが、まずは意識づけが必要。そのためには言い続けなければならない。時間もかかるが、明確な狙い

を定めて、できるところからやる」と力強い。

そのほかにも、市内小学校の入学式へ選手が出席し、約1万人の新入生全員にジェフ千葉のロゴマークが入った記念の定規をプレゼント、千葉市へ引っ越してきた新住民を試合に招待する「転入者招待」などを行っている。毎年6月に千葉市・市原市と行うクラブ挙げての一大イベント「ホームタウンふれあいフェスタ」は恒例行事として定着した。

市長は「5年、10年先を見据え、スポーツ文化を街の中につくりたい。ジェフ千葉を応援することでにぎわいと連帯感が生まれ、それが街の活性化につながれば」と理念を語る。

### パートナーとして

一方で、フクアリを管轄する同市の公園管理課ホームタウン推進室はジェフ千葉のJ2降格で、入場者数の減少によるまちづくりへの影響、広告占用料、入場者加算額、フクアリの命名権料減額など財政への打撃を懸念する。「収入減については、本当に痛い。建設費や維持費など30年近くかけて返さなければならないから。ジェフ千葉には最低限、J1にいてほしいのが本音」と市長は胸の内を明かす。そして、「まちづくりのパートナーとして、いつでも支援・協力する用意はできている。しかし、音頭を取るのはあくまでもジェフ千葉の方。勝ち負けは重要だが、それ以上にクラブの理念やビジョンを

しっかりと持って、この街のシンボルとなってほしい」と期待を込めた。

日本のプロサッカーは欧州や南米のように長い歴史もなければ、人々の生活に深々と根をおろすまでに至っていない。クラブの人気の順位や日本代表選手の有無に左右される面は否定できない。だからこそ、クラブを支えるホームタウンの自治体との関係が重要となる。クラブと自治体の互惠関係が、Jリーグの発展につながることを願う。



恒例のイベントとして定着した「ホームタウンふれあいフェスタ」

©ジェフユナイテッド千葉

(千葉日報社 鎌田 亮一)

# 歓喜から新たなる挑戦へ

## ジュビロ磐田 2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝に寄せて

静岡新聞社◎ 寺田 拓馬



ヤマザキナビスコカップの優勝は静岡県民に勇気と感動を与えた



静岡新聞の優勝速報版

などの役割を務め、ファン・サポーターとの交流を深めた。さらに9日の練習後には磐田市内の小学校を選手が「サプライズ」訪問した。この小学校訪問も全選手が今シーズン、手分けして行っている事業。タイトル獲得にも慢心することなく、地域貢献でクラブの存在価値を高める意識を持ち続けている。

ヤマザキナビスコカップ優勝という結果は残した。しかし、本当に大事なものはこれからの戦い。一昨年の同カップに優勝した大分トリニータが翌シーズン、J2リーグに降格し、昨年優勝のFC東京も今シーズンは降格争いの渦中にある。クラブ関係者は「磐田がジंकスを破らないといけない」と力を込める。

「若手が育ってこれほどのゲームをできたことは感無量」と松崎孝紀ジュビロ磐田元代表取締役社長(現 静岡産業大学客員教授)はチームの成長に目を細めた。ただし、道はまだ半ば。「リーグ戦も天皇杯も残っている。一つでも上のポジションを狙ってほしい」と松崎元社長は叱咤(した)激励する。

「優勝チームとして恥ずかしい試合はできない」と柳下正明監督もかぶとの緒を締める。生まれ変わりを図るジュビロ。ヤマザキナビスコカップ優勝で得た自信を、飛躍へとつなげることができるか。挑戦の続きを、地元市民もファン・サポーターも熱い視線で見つめている。

「常勝軍団復活へ足掛かりを作った」

ジュビロ磐田が11月3日、2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝でサンフレッチェ広島を下し、栄冠をつかむと、ホームタウン・磐田市のファン・サポーターは歓喜に心を躍らせた。ヤマザキナビスコカップ制覇は12年ぶり、タイトルも2003年度の天皇杯全日本サッカー選手権大会以来7シーズンぶり。ライバル・清水エスパルスとJ1の2クラブを抱える「サッカー王国・静岡」にとっても久しぶりのタイトルで、県民の心に勇気と感動を与えた。

当日、国立競技場へは、クラブが募った応援バスだけで60台、2,500人が乗り込んだ。勝利の瞬間をスタンドで見守った乗松保臣ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会理事長は目に涙を浮かべ、「チームに底力がついた。これが第2次黄金期を築きかけとなることを願う」と期待を示した。その日の夜、午後10時には、がい旋した選手を、ファン・サポーターら約1,500人がヤマハスタジアム(磐田)で待ち受けた。静岡新聞が用意した優勝速報1,000部はあっという間になくなり、ジュビロコールがいつまでも続いた。

リーグ戦優勝3回の歴史を持つ名門クラブも、ここ数年は思うように成績が伸びず、ファン・サポーターは悔しい思いを募らせてきた。08年にはJ1・J2入れ替え戦で「げっ」ぶちを経験した。現在は09年から3カ年のチーム再建計画で、世代交代を進めている途中。MFの名波浩、藤田俊哉、DF服部年宏らかつての主力選手がチームを離れ、昨シーズン末にはついに長年チームを支えたFW中山雅史もチームを去った。今シーズンのホームゲームの入場者は昨シーズンを下回っている。チーム成績でも、収益面でも「生みの苦し

み、を味わう中で勝ち取ったヤマザキナビスコカップ優勝だけに、クラブ関係者の喜びはひとしお。営業担当者は「集客にも弾みがつく」とほおを緩めた。

優勝を決めた翌日、ヤマハスタジアム(磐田)近くにあるジュビロ磐田の事務所には、地元住民有志や関係企業からアレンジフラワーや鉢物のランなど合わせて約30個が届いた。その中には準決勝を戦った川崎フロンターレからの生花もあった。黄金期には見慣れた光景だったが、「すごいね。優勝するとうなるんだね」。芳香に誘われ、通り掛かった近所の女性らが集まって久々の喜びをかみしめていた。

11月7日には第13回目のジュビロ磐田メモリアルマラソンが開催された。ヤマザキナビスコカップ制覇の余韻が残り、参加者は過去最多の5,370人。ジュビロ磐田の全選手がスターターや表彰式のプレゼンター



優勝の余韻が残る中、過去最多の参加者を集めたジュビロ磐田メモリアルマラソン

◎ジュビロ磐田



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。